

平成21年新年賀詞交換会

1月7日、市中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、200人を超える市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。

ここでは、主催者代表の池辺勝幸市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

◇丑のように我慢強く着実に

皆さん明けましておめでとございませう。

去年は子の年こねでした。いろいろな世の中が変わり、出来事が起きるというようにいわれていますが、まさしくその通りでした。経済面では、いろいろな問題が報道されています。皆さん、危機の時はチャンスの時です。今年は一生命、これから生活を良くするための努力をお互いにしていききたいと思っています。そのような意味で、今年は丑の年ですが、我慢強く、先を見て、果敢に、着実に、力強く、1年をスタートしたいと思っています。



◇ひたち野うしく小学校建設

国や県は「大変だ、大変だ」と言っています。牛久は違った意味で大変です。それは、やるが多すぎて金が足りません。ですから、緊縮財政ではなく、拡大予算です。牛久市では、このような時代の中で新しい小学校が、ひたち野うしく地区に来年4月に開校予定であり、その校舎の建築が始まりました。これから体育館、プールを設計および発注して、来年の4月開校に間に合わせたいと考えています。一部、プール棟について、工事が開校までに間に合うかどうかという問題がありまして若干の調整はありますが、まずはこのような時期に小学校を1つ開校するということを報告します。ただ、総額で約40億円近く掛かります。お金で頭を痛めるのは市長の仕事といわれませんが頑張りたいと思います。

◇子育て日本一のまちを目指し

それと同時に今年の4月に保育園が2つ開園します。牛久駅西部地区には、公設民営で200人定員の「つじが丘ふたばランド保育園」が開

園します。また、ひたち野うしく地区には、下根中学校の隣接に民設民営で120人定員の「牛久ひかり保育園」が同時に開園します。

そのことにより、牛久市の保育園の定数が820人から320人増えますので、1140人になります。そして、昨年の12月に平成21年度の保育園児の募集をしました。その結果から申しますと満杯です。ましてや1歳児の希望者が定員オーバーで、現在調整中です。820人から320人の定員を増やしても、保育園は足りない状況です。

◇牛久は若者の増えるまち

去年の4月から11月まで8カ月間の牛久市の人口動態の転入・転出の状況をみますと、牛久は基本的に若い人たちの転入・転出の著しいまちです。1年間に4000人以上、5000人近い人が転入をし、

またそれに近い方が転出をしております、若い方を中心に異動の著しい地域となっています。0歳から4歳までは42人純増です。ましてや25歳から29歳は104人、30歳から34歳は134人、35歳から39歳は124人、40歳から44歳は55人となっております。この8カ月間に転入・転出の差で純増した人数は782人に上ります。この数字を見ても、牛久は若い人たちが増え始めています。少子高齢化が進む中で、牛久市はようやく20歳

代、30歳代、そして40歳代前半の方が増えるまちになり始めました。これをまず皆さんにご報告したいと思います。このことは、牛久市がこれから住みやすい、そして夢のあるまちになるための一番の基本です。人口が増えてなく、逆に減少しているまちでは未来はありません。どんなにまちおこしをしても人口が減っているまちに活性化はありません。今、地域間競争とか、自治体間の競争、生き残りなどさまざまな言葉が行き交っています。その地域として、住んでいる住民の皆さんの安全・安心を守り、若い人たちも含めて、大勢の高齢者も含めて、みんなが安心して住めるまち、そして経済的にも困らないまち。それを作りあげるためには若い人たちの人口増加が不可欠です。牛久市はその流れができました。

◇茨城県で行政サービス第1位

私が市長に就任して1期目の時に4つの日本一を掲げました。「子育て日本一」、そしてまちづくりの運営を透明化して市民の皆さんと一緒に協働でまちをつくるために「情報共有化日本一」、そして「ボランティア日本一」、「安全安心日本一」、そして2期目にはそれに「健康日本一」を掲げました。

日本経済新聞の茨城版平成20年12月2日付けの記事についてですが、

「北関東3県、前橋市が首位、本行政サービス調査」と掲載されています。副題のところに「10位以内に牛久市・古河市」と書いてあります。

この記事の内容は、茨城、栃木、群馬、この3県の北関東の中で行政サービスの評価をし、その中で牛久市が8位に入ったということです。茨城県で、10位以内では古河市が入り、水戸市は茨城県では25位に入っています。これはどのようなことか。少なくとも日本経済新聞の「行政サービスの水準がどのようにになっているか」という調査結果において、茨城県においては牛久市の行政サービスが第1位になったということです。私は、こうした評価をいただきたいことは、市の職員と市民の皆さんとの連携が良くなり始めているという兆しだろうと思っています。

◇5つの日本一の実現に向けて

私は市民の皆さんに対する一つの目標として日本一を掲げました。それは大口をたたくというように聞いている方も大勢いらっしゃると思いますが、でも私は本気です。達成できないと思われる目標かもしれないですが、それを掲げて、そして着実にできることから、自分たちの器量に応じて着実に無駄を排除し、必要に応じて財源を配り、そして職員を教育し、市民の皆さんと連携して協力し合う、そのようなまちづく

りをこの5年間無我夢中でやってきました。そういう皆さんとの連携による成果が、まず1つ客観的な評価として表れてきたのだと思っています。

◇危機の時にチャンスの時

今年は「景気が悪い」「派遣労働者の首切りだ」などと、いろいろなことを耳にします。でも皆さん、この不景気は初めてでしょうか。

1990年代の日本経済のバブルといわれたあの時代から一気にバブルが崩壊し、民間では倒産が続発し、そして自殺者が増えたり、首切りをして血の涙を流してきたこの数十年ではないですか。今さら始まった不況ではありません。その間に零細企業はどうなったのですか。ましてや自営業の皆さんの実態はどうですか。不景気は昨日、今日始まったわけではありません。何が怖いことかあります。今年は皆さん危機の時というならば、「危」は危険だといわれています。また、もうひとつの「機」はチャンスだといわれています。苦しいときならば、ただ苦しいといっているのも何も道は開けません。できるところを着実に、あきらめず、みんなの手を取り合って頑張ってくださいよう。

戦争というものを経験し、戦争中に生まれ、戦後に生まれ、何も無いところから、住む家さえ無いところ

から、人によつては大陸から追い立てられ、身一つでみんなきたのではないですか。もう一度、足元をよく見て、皆さんと協力し合って、手をつないで、苦しいときは歯をくいしばって、そして一緒に進んで行くことによって夢のあるまちが実現できると思っています。

牛久市の財政は、それほど豊かではありません。牛久市より財政力の豊かなまちは、茨城県にもいっぱいあります。お金がいっぱいあってもその金をどこに使っているかが問題です。市民の皆さんが、今後苦しい中にあつても協力し合って、市と住民の皆さんが一緒になることによつて、どんな苦しいことがあつても乗り越えることができるかと確信しています。

苦しかったら「アッハッハ」と大きい声で笑って、明るく乗り越えていくのではありませんか。

◇職員と市民が協力し合うまち

牛久市役所も財政力が豊かではありません。しかし、必要なことは一時的に借金を増やしても実行します。そして、牛久市役所がより良くなることは、皆さんにより多くの仕事を通して恩返しすることかでき、牛久市の発展する基礎を作っていくことです。

私は職員に優秀になつてもらい、市民の皆さんと一緒に働いてもら



ことを希望しています。牛久市の職員は優秀でなければなりません。また、それぞれの分野においてリーダーでなければなりません。私は牛久市の職員が市民にとって住みやすいまちにするための、各分野における皆さんの相談相手になると同時に、いろいろな施策を実現するリーダーとなるべく教育をしています。

そして、その努力と結果に応じて昇進、降格させ、年功序列は廃止して一律は一切していません。ぜひとも今年1年また、皆さんと市の職員それぞれ一緒に手を取り合つて、夢のある、楽しみのあるまちにしようではありませんか。今年1年頑張りましょう。